すぎのこ　つうしん

船橋市立金杉台小学校　学校だより　６月号　　校長　中野　誠

〒273-0852　船橋市金杉台２－１－７
電話　０４７（４４８）３８７６
http://www.city.funabashi.lg.jp/gakkou/0001/kanasugidai-e/index.html

金杉台小ブログ

運動会を終えて

校長　中野　誠

梅雨入りを目前に控え、保護者・地域の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、５月３０日に開催した運動会では、あたたかいご声援をいただき感謝申し上げます。

さて、今年度の運動会は赤組の優勝で幕を閉じました。閉会式の成績発表では、歓喜する赤組の子どもたちと、健闘を称えて拍手を送る白組の子どもたちの姿がとても印象的でした。ひと昔前、「競争は子どもにストレスを与える」「順位付けは残酷だ」という意見が強まり、運動会でみんなが手をつないでゴールする学校が現れるなど大きな議論を呼びました。当時は国会で大臣が答弁を行うほど、教育現場における競争のあり方が問われた時代でもありました。あれから四半世紀が過ぎた今、ほとんどの学校で競技することや競争することが復活し、学習指導要領（教育内容の基準を示すもの）にも「工夫して競争する」「力を合わせて競争する」「競争する楽しさを味わう」また「勝敗に対して正しい態度や行動をとることができる」と示されています。

運動会の開会式では、私から子どもたちに「力いっぱい競争をしよう」と伝えました。ある研究では、ライバルと競い合うことで人のモチベーションは 25%上昇し、結果に関わらず、真剣に勝負に向き合った人の幸福度は 30%向上するというデータが出ています。適切な目標や競う相手を持つことは、個人の意欲や人生の幸福感を高めるということです。ゴールを目指して走る子どもたち、隣のレーンを気にしながら走る子、ゴールでガッツポーズをする子やくやしさに顔を歪めながらも最後まで駆け抜けた子。運動会にはそんな子どもたちをたくさん見ることができました。1950 年代、陸上競技の歴史の中で当時、人類には不可能と言われた「1 マイル４分の壁」は二人の選手が競い合うことによってわずか 3 か月の間に次々と塗り替えられました。二人は口をそろえて「彼がいなければ、自分はそこまで到達できなかった」と語り、「競争とは相手を蹴落とすためではなく、互いの可能性を限界まで引き出す糧（かて）である」という名言を残しました。

今後も本校では、ともに高め合い、健闘をたたえ合えるような教育機会の充実に力を注いでまいります。一人一人が自分の目標に向かって健やかに成長できるよう、支援してまいります。皆様のご理解をお願いいたします。

生活目標　**外で元気よく体を動かそう**